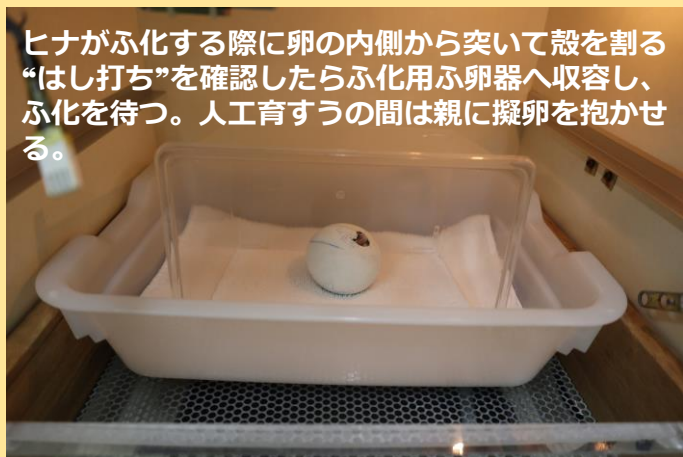


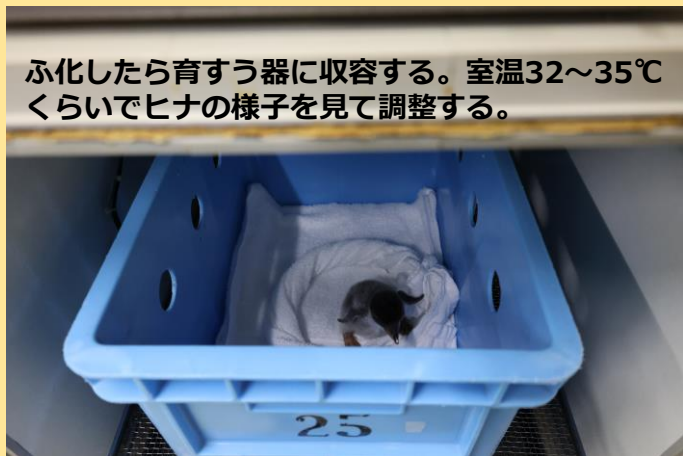


★初期人工育すうの簡単な流れ★

ヒナがふ化する際に卵の内側から突いて殻を割る“はし打ち”を確認したらふ化用ふ卵器へ収容し、ふ化を待つ。人工育すうの間は親に擬卵を抱かせる。



ふ化したら育すう器に収容する。室温32~35℃くらいでヒナの様子を見て調整する。



ヒナに与える餌作り。餌は魚やオキアミ、ビタミン剤などを水と一緒にミキサーにかけてペースト状にしたもの。



チューブをつけたシリンジ（注射器）で1日5回ヒナに餌を与え、生後4日齢で親元に返す。

初期人工育すうとは 飼育係がお手伝い！ ペンギンのヒナ誕生！

始めのちよっとだけ親代わり！

繁殖成功の工夫
今シーズン初めてとなるジエンツイーペンギンのヒナが11月8日に誕生した。現在、名古屋港水族館では生まれてすぐの小さいヒナが親に誤って踏まれてしまいがちなリスクを避けるため、孵化してから数日間だけ親に代わって飼育係が育てる「初期人工育すう」を実施している。この時ばかりは飼育係も可愛いらしいヒナの姿にメロメロだ。その舞台裏を少しだけ覗いてみる。

担当飼育係の声
人工育すうが終わり、親元に返したあとのヒナは親が食べた餌の吐き戻しをもらい成長するので親ペンギンがちゃんと子育てできているかチェックします。「親がしゃかり餌を食べているか」、「ヒナに餌を与えているか」注意深く観察したり、ヒナの体重を毎日測定して順調に成長しているか確認するなどいろいろです。ちなみに鳥という生まれ最初に見たものを親と認識する「刷り込み」が有名ですが、初期人工育すうのように数日であれば特に対策もなく返した大人のペンギンを親と認識するようです。そして親は擬卵がいなくなりヒナに変わっても特に気にすることなく子育てを始めます。